

2025.10.25

関係人口への期待と向き合い方について



福知山市2040年市民会議

©HAKUHODO



- 自己紹介
- そもそも関係人口とはなにか
- 具体的に関係人口とはどのようなひとか
- 関係人口の創出と維持をどのように設計するか
- 地域住民としてできるアクションはなにか
- おわりに





・人口規模が違うから...

・予算があるから...

・良い人がいるから...

・他の人がやれば...



・福知山なら
どうできるか？

・自分自身が
できることは？

・自分なら
どう考えるか？

フラットに、**じぶんを主語**として、**一緒**に考えていただけると嬉しいです



川上 友聖 (かわかみ ゆうせい)

(株)博報堂 地域共創プラットフォーム事業推進局 ビジネスプランナー

神奈川県横浜市出身。立命館大学在学中、祖母の出身地である福島県を訪れる。2022年から福島県双葉町にある古民家を借りて二拠点生活を開始し、2024年には同町にて文化芸術領域の企画をおこなう合同会社totenを設立。自社事業に加え、福島県より「ふくしま12市町村移住サポーター」を委嘱。

2025年9月にて合同会社totenの事業譲渡をおこない、(株)博報堂に入社。博報堂では富山県朝日町でまちづくり推進や官民地域共創の事業開発を担当。

現在は三拠点生活中。

神奈川県横浜市 (週3) ⇄ 富山県朝日町 (週2) ⇄ 福島県双葉町 (週2)





富山県東端
新潟県との境界に位置しています!



基本情報

<人口> **10,798人** <世帯数> **4,636世帯** ※令和5年9月現在
<高齢化率> **45%** ※町内全域過疎指定、消滅可能性都市にも挙がる。

地勢

海拔**0m**のヒスイ海岸から標高**3,000m**級の朝日岳まで。
町域の9割は自然、“**うみ彦・やま彦・夢産地**”



観光名所

春の四重奏：残雪の山々/桜並木/菜の花/チューリップの四重奏。
ヒスイ海岸：翡翠の原石が打ち上がり、日本の渚百選にも選定。

特産・スポーツ

たら汁：朝日町の郷土料理。たら汁料理店が密集する“**たら汁街道**”も。
ビーチボール：ビーチボール競技発祥の地。室内で行う競技。



**住民は199人
(うち6割が移住者)**



ずっと、ふるさと。
双葉町。

基本情報

<人口> **5133人** <世帯数>2164世帯 * 令和7年9月時点
<高齢化率> 37.5% * 令和4年10月時点

特性

東日本大震災によって2011年3月から**11年5ヶ月**の全町避難。
2025年10月現在も町内の**85%**が帰還困難区域に指定。

観光名所

東日本大震災・原子力災害伝承館：東日本大震災の震災伝承施設
FUTABA Art District：双葉町内の全域にある壁画アート

特産・スポーツ

双葉ダルマ：300年前（江戸時代）続くダルマ市にて販売される縁起物
野球：福島県立双葉高等学校が甲子園に3回出場。（現在は廃校）



そもそも
関係人口とはなにか？



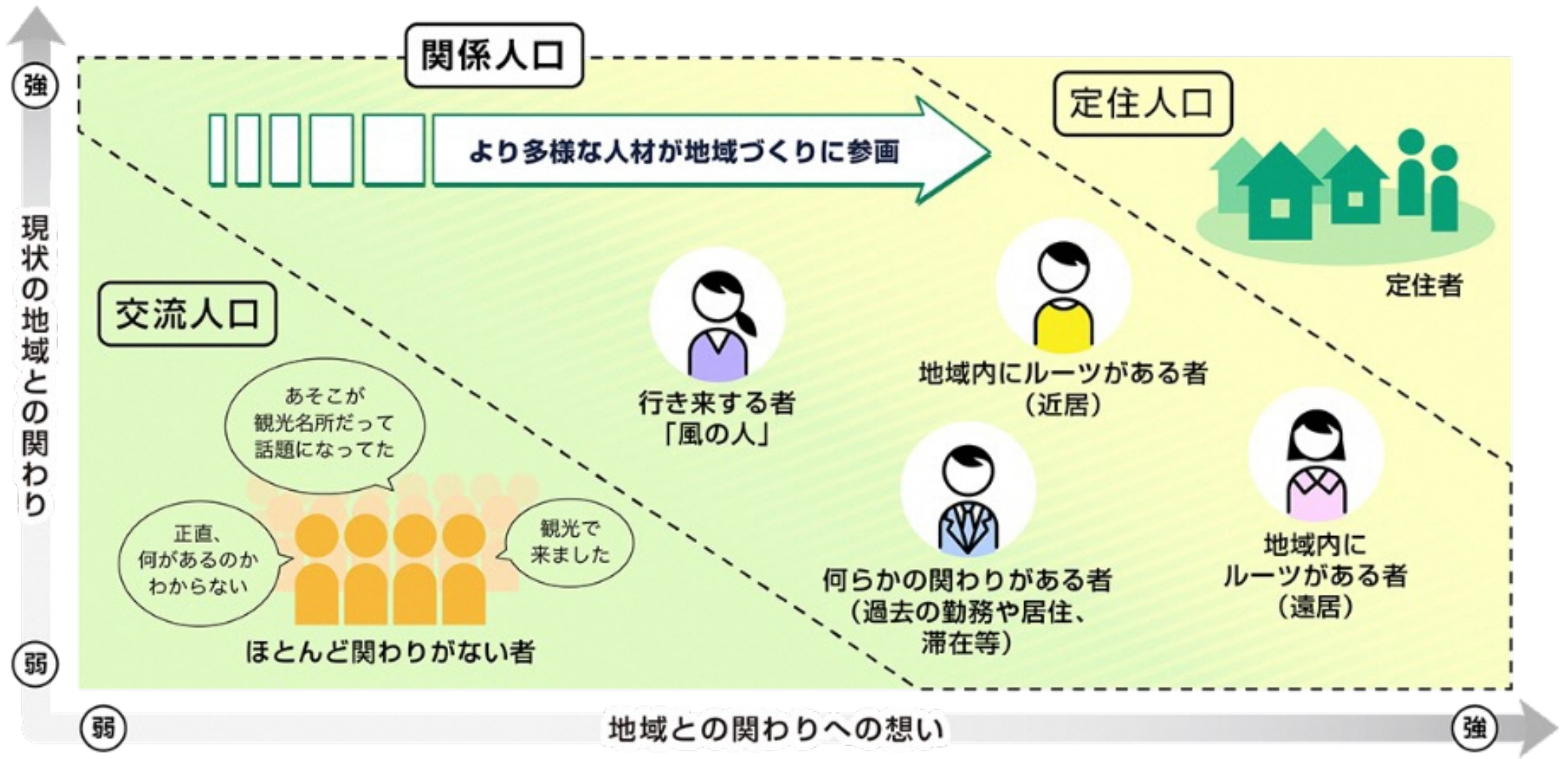


かんけいーじんこう【関係人口】

《名》地域や、その地域の人々とさまざまな形で関わる人々。移住した人々を指す「定住人口」や、観光に来た人を指す「交流人口」とは異なり、あくまで拠点は地域外に置きながら地域と継続的に関わる。地域づくりに必要不可欠な流動的人材として、地域活動の維持や地域経済の活性化、内発的発展につながることを期待されている。

* 都市と地域をかきまぜる（2023／高橋博之）第2章「交流人口と定住人口の間に眠る「関係人口」を掘り起こすのだ」。「日本人が団体がどんどん減っていくのだから、定住人口を劇的に増やすのは至難の業だ。しかし関係人口なら増やすことができる」。

出典：関係人口 -都市と地方を同時並行で生きる-（2025／高橋博之）

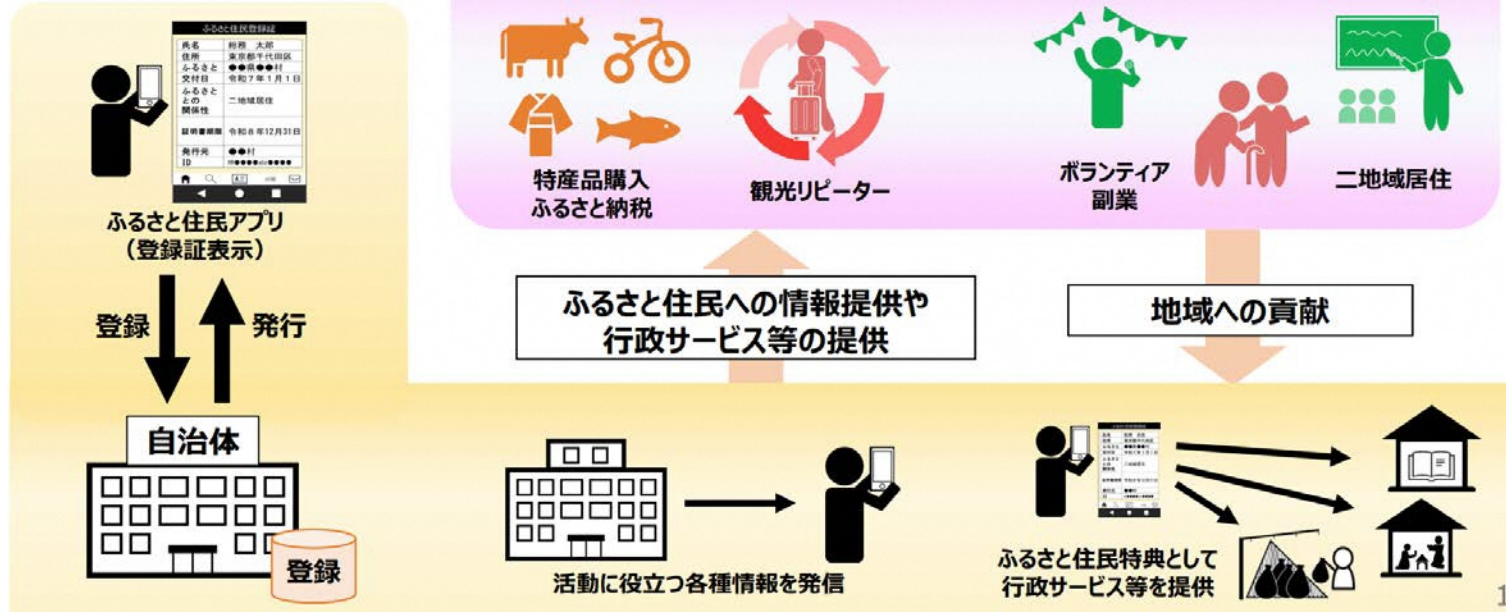




「ふるさと住民登録制度」の創設について

- 「地方創生2.0」の実現に向けた取組として、「関係人口」に着目し、住所地以外の地域に継続的に関わる方々を登録できる「ふるさと住民登録制度」の創設に向けて検討中。
- 「関係人口」の地域との関わり方には、消費活動等による地域経済への貢献や、ボランティアや仕事を通じた地域の担い手としての貢献など、それぞれのスタイルに応じた様々な形がある。
- できるだけ多くの方々に地域を応援していただけるよう、誰もがアプリで簡単・簡便に登録でき、また自治体の既存の取組を緩やかに包含できるような柔軟かつ間口の広い仕組みの構築を目指す。

目指す姿のイメージ



関係人口とは
どのようなひとか？





地域愛に溢れている人？

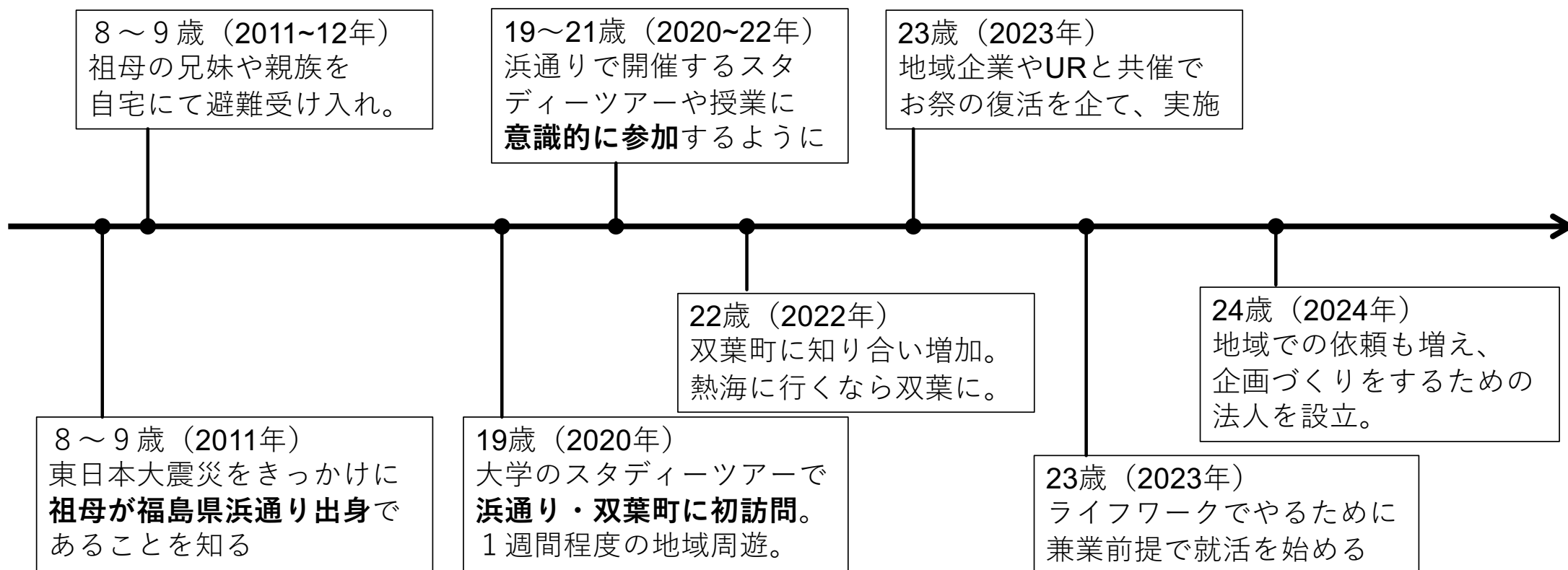
ボランティア精神のある人？



もちろん地域への想いや復興への貢献意欲はあるが、
誰ひとりとして、**地域創生/復興が主目的ではない。**
それぞれの**意思・やりたいこと**が前提にある。



川上自身が福島県双葉町の関係人口になるまでの流れ













つまり、関係人口は、
地域づくり/地方創生における特効薬や救世主ではないが、
じわじわと地域をあたためる火種ではある。



関係人口の創出と維持を どのように設計するか



関係人口の創出と維持に重要な三要素





アーティスト・イン・レジデンス【英：Artist-in-residence program】

《名》 アーティストが一定期間滞在し、創作活動ができる施設や機関の名称。

制作の支援やワークショップの実施、あるいは国際交流や文化振興など、施設によってその目的は多岐にわたる。欧米で1970年代に普及しはじめたこの制度は、今では「パトロン」の現代的形態としてすっかり定着し、多くのアーティストにとっては、有意義なスカラシップ・留学制度であると同時に、その滞在歴が展覧会歴や受賞歴と同様キャリアの評価基準という一面も持つようになった。



Artist in Futaba

-学生アーティスト中期滞在型アーティストインレジデンス-

■ 背景

- 東日本大震災後11年間、双葉町全域が帰還困難区域 → 歴史・伝統継承が困難な状況
- オーラルヒストリー調査110件実施 → 49.2%が地域文化・芸術関連の記憶が存在
- 双葉町の地域住民にとって、地域文化・芸術が大きなアイデンティティ
- 双葉町の地域素材（粘土・古紙等）は放射能汚染懸念で個人取得が困難な状況

■ 目的

- 双葉町の歴史・伝統・文化の促進/魅力発掘と地域住民との共創による関係人口拡大
- 双葉町全体の文化芸術活動のさらなる発展と新たな担い手の獲得
- 成果展を通じた魅力発信と長期的運営モデルの確立



アーティスト・イン・レジデンスの流れ

1. 学生公募・選定プロセス

- 準備：～8/15（公募要項設計・説明会）
- 公募期間：8/15～9/15
- 選考：書類＋オンライン面談

2. 事前インプット（9/15～9/30）

- 双葉町・浜通り地域説明、放射線や震災に関する講習、オンライン個別ヒアリング

3. キックオフ合宿（10/4～10/5）

- 町内フィールドワーク、住民交流会、ワークショップ開催

4. 中期滞在制作（10/1～1/31）

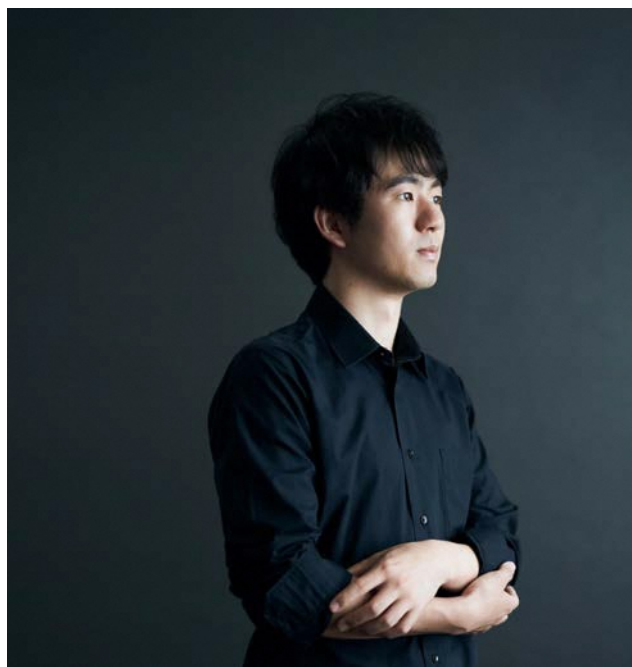
- 最大123日間の滞在制作支援（toten House拠点利用）
- 地域住民や連携団体との交流会やイベントの開催（6回以上）

5. 成果発表

- 成果展準備・開催（2026年1月・双葉町と東京都開催）



アーティストの参加動機・やりたいこと





アーティスト・イン・レジデンスの成果

1. 参加アーティスト

8組のアーティストが滞在制作。

うち、**6組のアーティストが本事業終了後も双葉町にて自主活動・制作を実施。**

加えて、アーティスト起点に彼らの友人知人も自主活動・制作に参画し、**18名が関係人口化。**

2. 地域住民との交流

双葉町民と地域住民の交流機会：16回（4ヶ月）

地域住民の文化芸術活動への参画：9回（4ヶ月）

上記を通じた**地域住民との交流総人数：313名**

3. 地域住民との共創

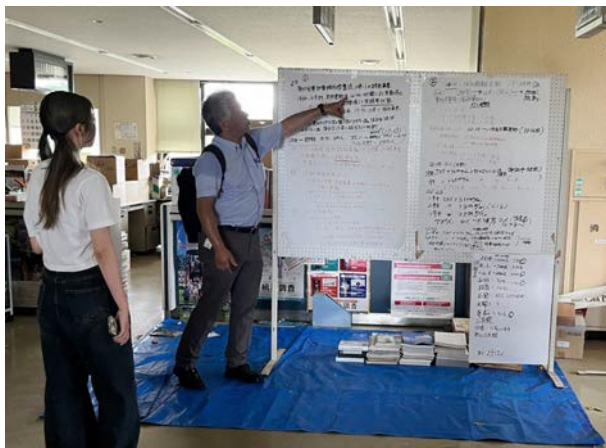
地域住民とアーティストが共に地域イベントで出展 / 共創：4回

地域住民とアーティストが共同制作 / 共同プロジェクト推進：4件

4. 制作された作品による展示会

地域住民や関係者の協力のもと**双葉町内8箇所にて作品展示**

反響によって、東京新聞本社（東京都）・経済産業省（東京都）でも追加展示





Artists in FUTABA 2024 / 成果展

(Artists in FUTABA 2024) は、2024年10月から4ヶ月間、学生アーティストとメンター（アーティスト）と協働で福島県飯沼町に滞在し、町の文化や自然、そこで暮らす人々との交流から作品制作を行うアーティストインレジダンスプロジェクトです。滞在期間中には、多岐にわたる飯沼町に点在する様々な地域文化、日常的な生活から、飯沼町に対する理解を深めていきました。第1回日本震災復興から始まった飯沼町文化、芸術をテーマとした作品を通じて浮かび上がります。今回はその成果を一堂に集約いたしますので、ぜひご覧ください。飯沼町の魅力やアーティストたちの思いが詰まった作品群から、飯沼町の「いま」を感じていただければ幸いです。

Artists

1 石田千穂 THODA CHIKO 東京藝術大学 芸術学 芸術実践科 卒業後 2年 所属 東京	2 岡田ひかる OKADA HIKARU 東京藝術大学 大学院 芸術実践科 卒業後 2年 所属 インスタレーション	3 山中春海 YAMANAKA HARUHI 東京藝術大学 大学院 芸術実践科 メディア芸術専攻 1年 所属 インスタレーション	4 藤原悠 FUJWARA YU 東京藝術大学 大学院 芸術実践科 1年 所属 インスタレーション・演劇
---	---	--	--

mentor

5 宇野麻理 UNO MARIE 東京藝術大学 大学院 芸術実践科 卒業後 2年 所属 インスタレーション	6 藤原真大 FUJWARA MAHOTA 東京藝術大学 大学院 芸術実践科 メディア芸術専攻 1年 所属 インスタレーション
---	---

合同会社 toten とは？

※合同会社 toten は、福島県飯沼町地域における地域コンタクトや企業の開発・支援事業、地域に根付いた文化・芸術プロジェクトの企画・推進をおこなっています。

東 日本大震災以降から地域に根づく文化、新しい文化らしつつ、個性や個性を尊重する企業・コンタクト開発を推進としており、様々な企業・団体の方向性と地域の個性に合わせた取り組みを行っています。芸術、実業家と協働して様々な活動も行ってきており、活気ある地域づくりも実現しています。地域の可能性を上げ、地域活性化に取り組んでいます。

Instagram:

合同会社 toten inc
 Mail: toten.inc@gmail.com | Instagram: @toten_inc
 main visual Photo: Harumi Yumakita





アーティストの視点で
震災と復興を体感する

現代アートが映す
復興と芸術
3/28 ~ 3/29 **ツアー**

発着場所
**東京駅鍛冶橋
駐車場（予定）**

参加費 **0円**
*発着場所への交通費や食費等は自己負担

point 1

東日本大震災の震災遺構や
町内数策を通して、双葉町の
過去と現状を体感できます。

point 2

現代アーティストが制作した
双葉町内を巡るアートツアー
を特別に実施いたします。

point 3

双葉町で滞在制作を実施した
新進気鋭のアーティストと
共に双葉町を巡ります。

<ツアー工程表>

1日目：8：30 東京駅発＞高速バスで双葉町へ移動＞14：30 東日本大震災・原子力災害伝承館の見学
＞16：00 震災遺構を巡るまちあるき＞18：00～チェックイン（1人1室・個室）

2日目：8：45 ホテル発＞9:30 現代アーティストによるアートツアー＞11：00 コース別コンテンツ
＞14：00 双葉駅発＞高速バスで東京駅へ移動＞18：30 東京駅にて解散

主催：一般社団法人ふたばプロジェクト、合同会社toten 参加費/0円 ※ご予約は3月14日まで
お問い合わせ / toten.inc@gmail.com





関係人口の創出と維持に重要な三要素

ひと

- ・ 地域の人々との対話や語りを聞くことこそが、関係人口にとって**地域を理解・解釈することへの糸口**につながる。
- ・ ヨソモノである関係人口にとって、やりたいことを地域住民に**理解・共感してもらえることが何よりも力**になる。
- ・ **オープンマインドでフラット**に向き合うということ

コンテクスト

- ・ 地域独自の歴史、文化、価値観、課題、そして**人々の語り（ナラティブ）**こそが、外の人が継続的に関わるための「コンテクスト」になる。
- ・ 地域の方々との対話を通して、「**自らのやりたいこと**」と「**地域のコンテクスト**」との**接続**について何度も解釈しなおすことで、自らの役割や手段の輪郭を掴むことができる。

しくみ

- ・ ひとと出会い、対話することやコンテクストに触れ、解釈することは**かなり労力のいること**
- ・ これは地域住民と関係人口どちらにとっても同様であり、持続的ではなく、不健康である。
- ・ 特定の誰かだけが大変な思いしないための**苦勞せずともWin-Winになれる”しくみ”**をつくる必要がある。



地域住民としてできる
アクションはなにか



関係人口の創出と維持に重要な三要素

ひと

- ・ 地域の人々との対話や語りを聞くことこそが、関係人口にとって**地域を理解・解釈することへの糸口**につながる。
- ・ ヨソモノである関係人口にとって、やりたいことを地域住民に**理解・共感してもらえることが何よりも力**になる。
- ・ **オープンマインドでフラット**に向き合うということ

コンテクスト

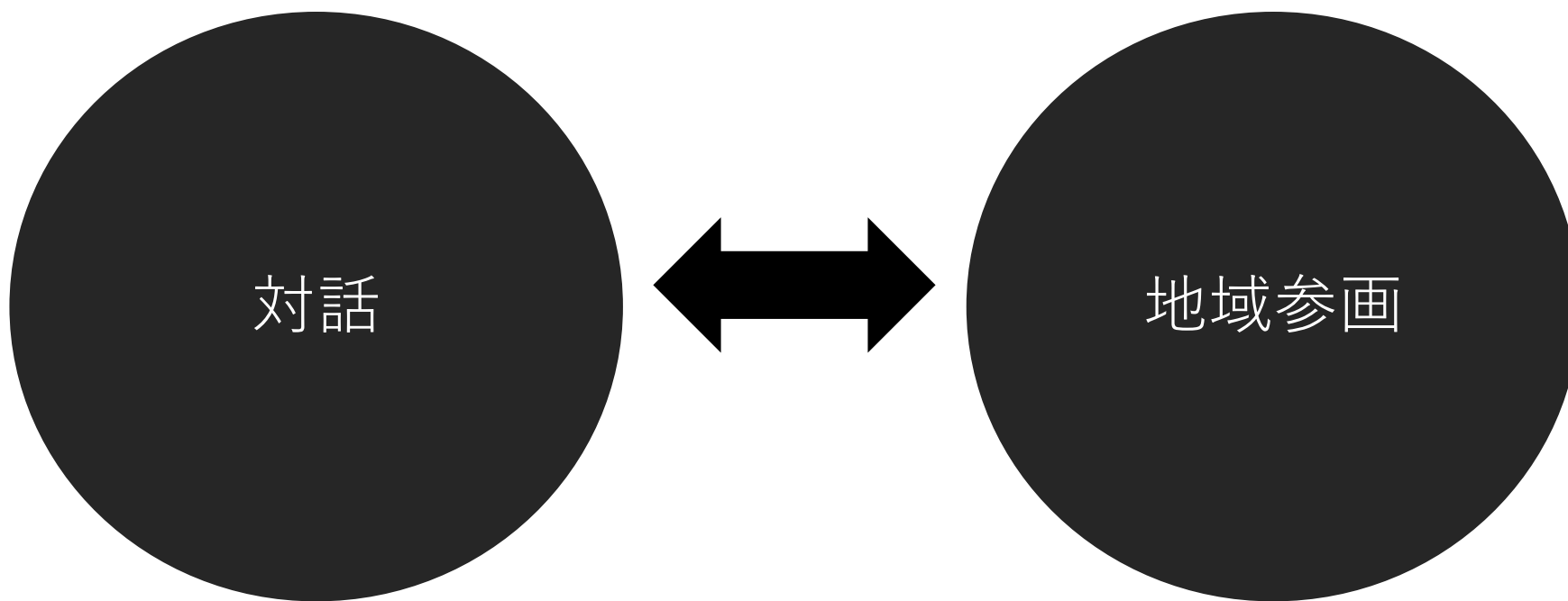
- ・ 地域独自の歴史、文化、価値観、課題、そして**人々の語り（ナラティブ）**こそが、外の人が継続的に関わるための「コンテクスト」になる。
- ・ 地域の方々との対話を通して、「**自らのやりたいこと**」と「**地域のコンテクスト**」との**接続**について何度も解釈しなおすことで、自らの役割や手段の輪郭を掴むことができる。

しくみ

- ・ ひとと出会い、対話することやコンテクストに触れ、解釈することは**かなり労力のいること**
- ・ これは地域住民と関係人口どちらにとっても同様であり、持続的ではなく、不健康である。
- ・ 特定の誰かだけが大変な思いしないための**苦勞せずともWin-Winになれる”しくみ”**をつくる必要がある。



一歩目で出来るアクション





対話から生まれた関係人口

東京・大熊町の二拠点
IT会社員 兼 キウイ農家



東京・浜通りの二拠点
作曲家・ピアニスト



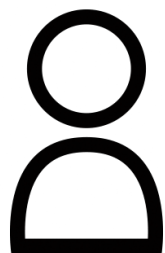
秋田・富岡町の二拠点
大学生 兼 地域の施設職員





地域参画から生まれた関係人口

官民・地域共創の朝日町での事例をご紹介します



地域(町民)



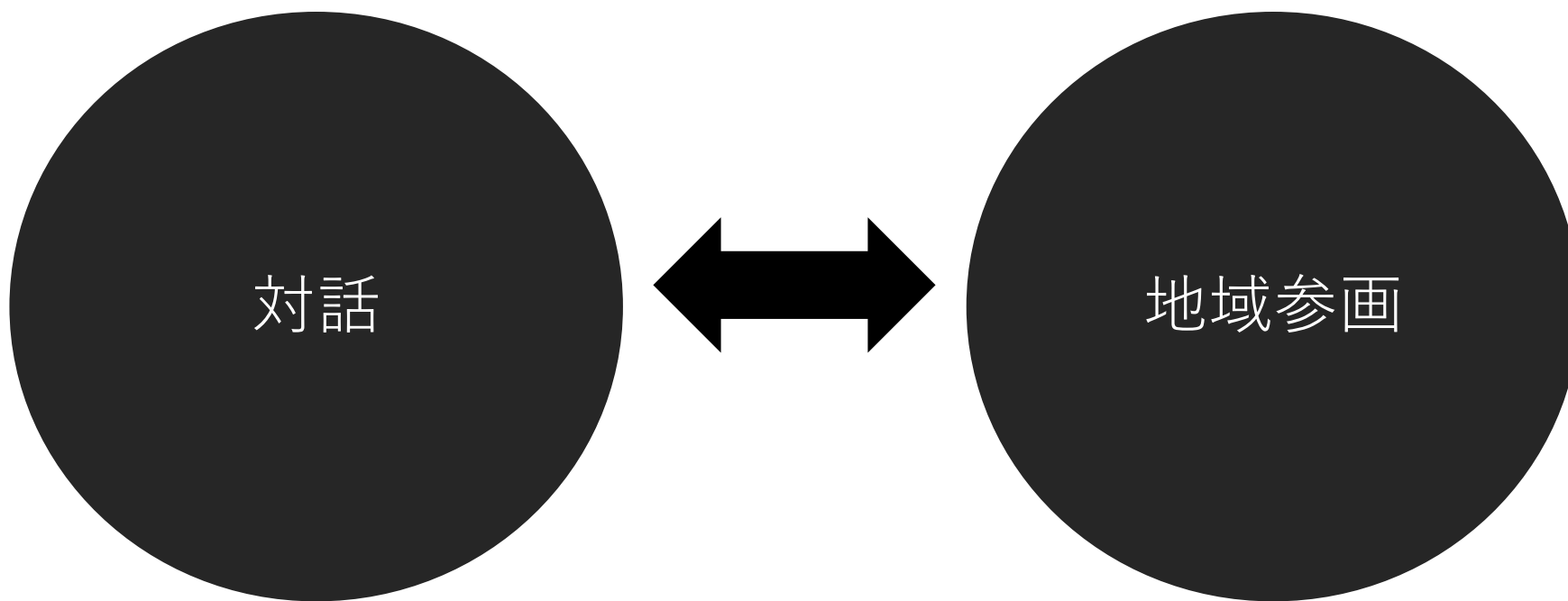
朝日町役場

・HAKUHODO・

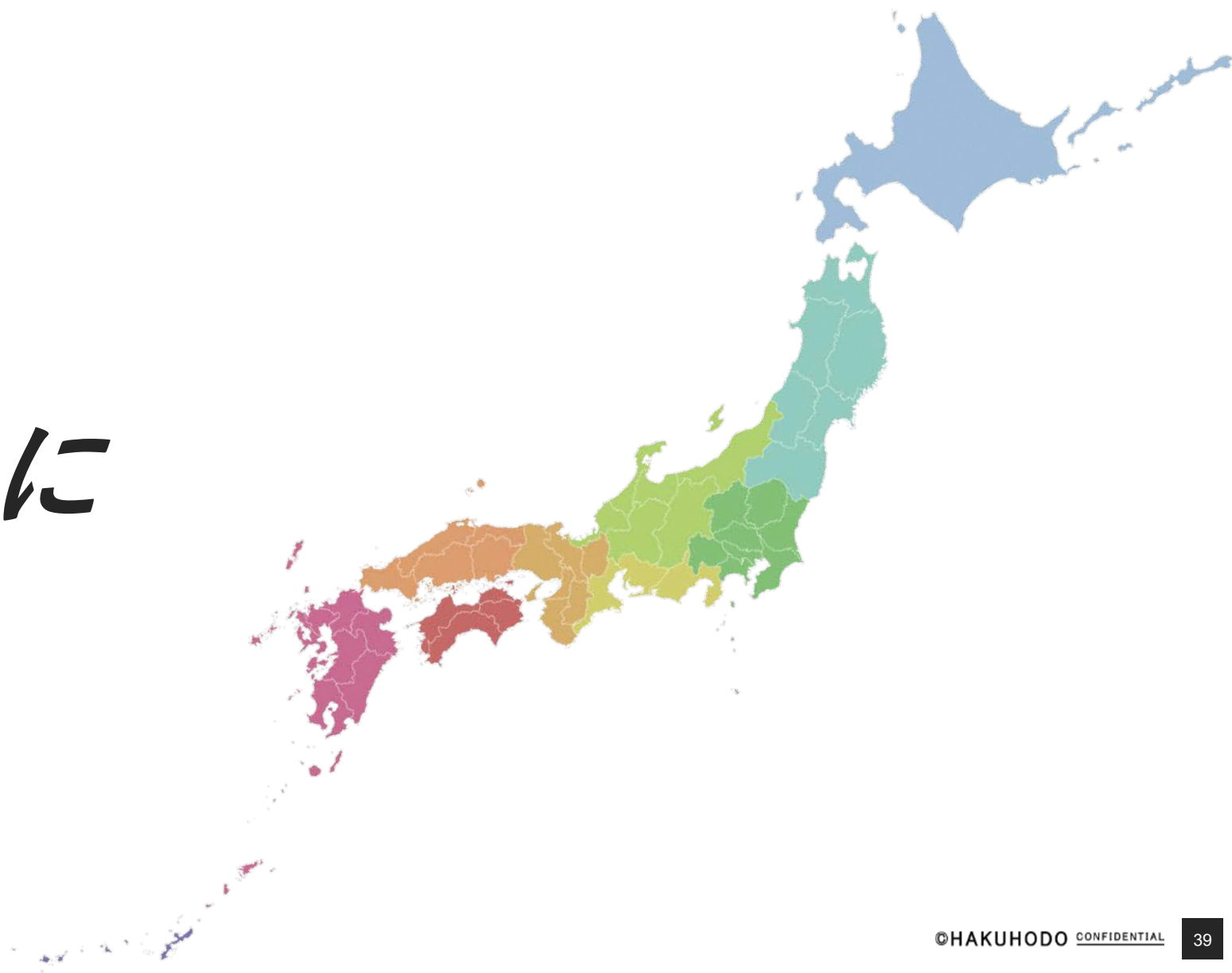
博報堂



一歩目で出来るアクション



おわりに





関係人口は、地域への想いや貢献意欲はあるが、
誰ひとりとして、**地域貢献が主目的ではない。**
それぞれの**意思・やりたいこと**が前提にある。



関係人口の創出と維持に重要な三要素

ひと

- ・ 地域の人々との対話や語りを聞くことこそが、関係人口にとって**地域を理解・解釈することへの糸口**につながる。
- ・ ヨソモノである関係人口にとって、やりたいことを地域住民に**理解・共感してもらえることが何よりも力**になる。
- ・ **オープンマインドでフラット**に向き合うということ

コンテクスト

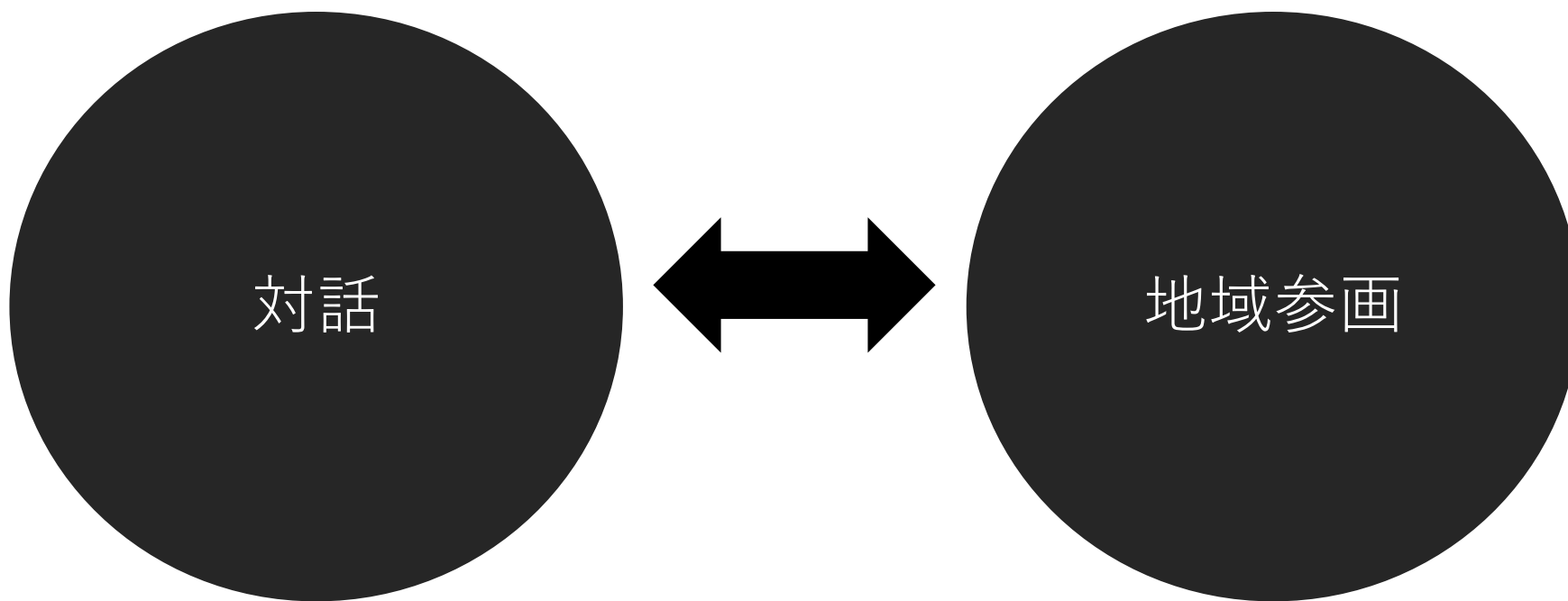
- ・ 地域独自の歴史、文化、価値観、課題、そして**人々の語り（ナラティブ）**こそが、外の人が継続的に関わるための「コンテクスト」になる。
- ・ 地域の方々との対話を通して、「**自らのやりたいこと**」と「**地域のコンテクスト**」との**接続**について何度も解釈しなおすことで、自らの役割や手段の輪郭を掴むことができる。

しくみ

- ・ ひとと出会い、対話することやコンテクストに触れ、解釈することは**かなり労力のいること**
- ・ これは地域住民と関係人口どちらにとっても同様であり、持続的ではなく、不健康である。
- ・ 特定の誰かだけが大変な思いしないための**苦勞せずともWin-Winになれる”しくみ”**をつくる必要がある。



一歩目で出来るアクション





ご清聴
ありがとうございます